巻頭言

教員をめざす皆さんへ

別府大学
学 長　豊 田 寛 三

教員養成を目的とする学部に30数年間在職していました。したがって卒業生の多くは教員になっています。入学前から自分の将来の職業は「教師」と決め、教師になるために大学に入った、という人もいます。しかし、なかには、なんとなくの入学とか、周りの波に巻き込まれて？という人もいました。そういう人も、４年間の学びで大きく成長し、卒業後に教育現場に入り、さまざまな研修や経験のなかで、立派な教師となっています。皆さんも教員をめざす強い気持ちを抱き、自らを成長させてください。

では自分はどうだったのか？とふりかえってみます。大学入学時は、かなり強く教員になろうと思い大学に入りました。必要な教職単位を適当に取り、教員免許は取得しましたが、教員採用試験前に研究の面白さに目覚め（？）、とうとう試験は受けずじまいでした。

大学における教員免許取得には、さまざまな教科・教職の専門科目を受講し、単位の取得が課されています。詳細は『学生生活』に記されており、又ガイダンスなども開かれますから、失敗のないようにしてください。いうまでもありませんが、１単位でも不足すると免許そのものが出ません。１単位に泣いた人も相当知っています。

また、最近のさまざまな教育課題に応えられる教師の資質を磨くために科目や内容が変更されています。その情報も確実に把握することが大切です。教育は頭のなかで考えているだけでは、何の成果もありません。あくまでも実践と結びつく理論でなければいけないと思います。教員免許取得の条件として「実習」が課されています。教員免許に必要な単位は、大学の教室での学習だけではありません。実習が大切な科目として置かれています。実習には、義務制学校（本学では中学校）の免許に課された介護等体験実習と教育実習（事前・事後の指導をふくむ）があります。私の経験からすると、この実習が学生諸君をおおきく成長させると思っています。

自分に戻りましょう。私にとって教育実習という言葉を聞くとすぐに思い出す出来事があります。私の在籍した大学では、附属学校で実習をしました。そして、どういう訳か知りませんが、自分の取得免許でない小学校での実習も課されていました。中学・高校の実習は、自分なりに努力をし、ほとんど徹夜状況で指導案をつくり、授業をしました。指導の先生が急に所用ができたことがあり、「ここ、代りにやってください」といわれ、代講をしましたから、まあまあの実習生だったのでしょう。そして、なんとか終わりました。そして、小学校実習が待っていました。

配置された学年は、４年生でした。実習生とは年も近く、おのずと距離をおいている高校生などとは異なり、小学生にとって、実習生はやさしいお兄ちゃん・お姉ちゃんです。休み時間など一緒にグランドを駆け回りました。最初に算数の授業をしました。これは、作業学習なども取り入れ、ほぼ予定通りの進行でした。

もう一度ということで、今度は専門である「社会」の授業をすることになりました。自分が担当する授業内容は「島のくらし」でした。かなり準備をして授業に臨みました。はじめのあいさつをして、「今日は島のくらしをお勉強します。」、「島にいったことのある人？」、「シーン」、何の反応もありません。頭が真っ白になって、言葉が出てきません。個別の授業で、導入（最初の発問）の大切さは、理解していたつもりです。自分としては、子供たちの経験に基づき、交通手段や産業、ライフラインの確保などにおいて、島の暮らしの特徴や困難さを語り合おうというつもりでした。ところが、導入での大失敗です。その後、どんな授業となったのか、よく覚えていません。「初めから先生はいない。そのために勉強するのだ。」子どものころ親からもよくいわれたものです。私にとってあの「シーン」（大失敗）は一生忘れられないものの一つです。

大学の教員になって実習生の授業もたくさん見ました。さすがに、私のような失敗授業はありませんでした。しかし、授業中に実習生の顔が一瞬にこわばり、ぎこちない動きになるのは、しばしば見かけました。後で、「あの時は、頭が真っ白だったでしょう」と指摘すると、「その通りです」という返事が返ってきました。自分の40年をふりかえっても、一時間（コマ）の授業がつまずきなく終わることはほとんどありません。きっと皆さんも同じようなことを経験することでしょう。

しかし、傷を小さくすることはできます。その方法は、まず正規の教員や実習生仲間の授業をよくみることです（観察）。そして、その授業を分析することです。その分析を自分の授業案（指導案）づくりに生かすことです。とはいえ、指導案どおりに授業がすすむことは、まずない、と言っていいでしょう。そのためには、さまざまな仕掛けを準備しておく必要があります。そのための教材研究です。丹念でち密な教材研究こそが充実した授業をつくり、「教師」を成長させると思います。

全ての人が教員免許を取得し、教壇に立てることを祈っています。がんばりましょう。